

1 小学校における参考事例

< A 表現 >

(1) 歌唱の活動を通して

*小学校学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(3) 歌唱の指導については、次のとおり取り扱うこと。

ア 相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。

イ 歌唱教材については、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること。

ウ 変声以前から自分の声の特徴に関心をもたせるとともに、変声期の児童に対して適切に配慮すること。

第1学年 A 表現 (1) 歌唱

題材名「音楽に合わせて」 教材名「うみ」

【第1学年及び第2学年の目標】

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

【第1学年及び第2学年の歌唱の指導事項】

- ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。
- イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。
- ウ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。
- エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ, エ

- ・海のイメージを膨らませ、のびやかな旋律の特徴を感じ取って表現する。
- ・三拍子の流れやフレーズを感じ取って表現する。
- ・のびやかな曲の気分を感じ取りながら、声を合わせて歌う。

【第1学年の歌唱共通教材】

「うみ」	(文部省唱歌)	はやし 林	りゅうは 柳波	作詞	いのうえ 井上	たけし 武士	作曲
「かたつむり」	(文部省唱歌)						
「日のまる」	(文部省唱歌)	たかの 高野	たつゆき 辰之	作詞	おかの 岡野	ていいち 貞一	作曲
「ひらいたひらいた」	(わらべうた)						

うみ

文部省唱歌
作詞 林 柳波
作曲 井上 武士

一、うみは ひろいな
おおきいな
つきが のぼるし
ひが しずむ

二、うみは おおなみ
あおい なみ
ゆれてい どこまで
つづくやら

三、うみに おふねを
うかばせて
いって みたいな
よその くに

「打ち寄る駿河」と万葉のうたの枕ことばにも歌われた「駿河湾」、変化に富むリアス式海岸の続く「伊豆の海」、そして船乗り達に恐れられた「遠州灘」と静岡県は海に恵まれた県です。黒潮が寄せ、潮の香むせる海辺の村や町には、遠く舟で運ばれた唄もあります。舟で遠くへ行ってしまいう人を思う唄もあります。磯に暮らし、魚採る喜びの唄もたくさんあります。

「静岡県こころのうた」

静岡県教育委員会 平成八年発行

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞の音読をした後に、波の音や景色や季節について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・波打ち際の風景であることを押さえる。 ・個々の体験などを基に、海のイメージを膨らませる。 ・自分はどんな気持ちで歌いたいのかを考える。 <p style="color: red;">※いろいろな海の写真やイメージ画を準備しておく。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴いて歌詞や旋律を覚え、声を合わせて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・正しい音程やリズムでのびのびと歌う姿勢を大切にす。 ・話し合った波の音や様子(景色)を思い浮かべながら歌う。 	旋律
<ul style="list-style-type: none"> ○ 三拍子や速度の働きを感じ取り、のびやかな気分を味わいながら、思いを持って歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れに合わせて、体を揺らしたり手を動かしたりしながら歌う。 ・速く歌ったり遅く歌ったりしながら、自分たちの海のイメージに合う歌い方を考えたり、工夫して歌ったりする。 	拍の流れ 速度
<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの声を聴き合いながら、海の情景を想像し、心を合わせて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・集団を2グループに分けて、2小節ごとや4小節ごと、または1番、2番、3番ごとに交互に歌い合い、友達の歌声を聴く。 ・友達のよいところを発表し合ったり、まねして歌い合ったりする。 ・互いの歌を聴いて、どんな「うみ」が想像できたか伝え合う。 	旋律 拍の流れ 速度

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・広々とした海の情景を想像したり、のびやかな気分を感じ取ったりし、思いを持って歌う学習に進んで取り組もうとしている。 ・友達の歌声や伴奏の響きを聴きながら、自分の声を合わせて歌う学習に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・速度、旋律、拍の流れなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、広々とした海の情景を想像したり、のびやかな気分を感じ取ったりして表現を工夫し、どのように歌うかについて思いを持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広々とした海の情景やのびやかな気分にあった表現で歌っている。 ・友達の歌声や伴奏の響きを聴きながら、自分の声を合わせて斉唱している。

音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかわるができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れることは大切です。しかし、体を動かすこと自体をねらいとするのではなく、音楽を感じ取る趣旨を踏まえた体験活動であることに留意する必要があります。

小学校学習指導要領解説 音楽編 p. 71 参照

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴いて、「虫のこえ」の旋律や歌詞を覚える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵, 写真, 音, 映像, 子どもの実体験などから虫や虫の鳴き声のイメージを膨らませる。 ・ 虫の名前, 鳴き方などについて焦点化する。 <ul style="list-style-type: none"> 例: 「どんな虫が出てくるかな?」「その虫はどのように鳴くのかな?」 ・ 虫の映像や音声を視聴し, 擬声語を自由に考えて遊ぶ。 ○ 虫の鳴き声の違いを感じて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 5種類の虫の鳴き声の特徴を聴き取る。 ・ 虫が鳴いている情景を想像しながら歌ったり, 虫の鳴き声の歌い方を工夫しながら歌ったりする。 ○ グループで虫の鳴き声に合う音を探す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感じ取った特徴を基に, 5種類の虫の鳴き声を表す楽器を考える。 ・ 音色や強弱, リズム等を工夫して, 自分たちのイメージする虫の鳴き声を楽器で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> 例: 1匹のまつ虫が遠くの方で鳴いている様子を表します。 たくさんのくつわ虫が庭で鳴いている様子を表します。 ・ つくった音楽への思いを伝えながら, 友達と聴き合う。 ○ グループで考えた「虫のこえ」を歌と楽器で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞が鳴き声の部分は歌わず, それぞれがつくった楽器の音で表す。 ・ 5種類の虫の鳴き声をどの楽器で表していたか, グループでつくった音をクイズ形式で発表し合う。(楽器が見えないような工夫をする。) 	<p>音色 強弱</p> <p>音色 問いと答え</p> <p>音色 リズム</p> <p>音色</p>

【評価規準例】

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
歌 唱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「虫のこえ」の歌詞の表す情景や気持ちを想像したり, 楽曲の気分を感じ取ったりし, 思いを持って歌う学習に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「虫のこえ」の音色, 強弱, リズム, 問いと答えを聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら, 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり, 楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し, どのように歌うかについて自分の考えや願いを持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「虫のこえ」の歌詞の表す情景や気持ち, 楽曲の気分合った表現で歌っている。
音 楽 づ く り	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな「虫のこえ」を声で表現したり鳴き声を楽器で表したりする面白さに興味・関心を持ち, 音遊びに進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな声や楽器の音の様々な特徴を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら, 声や音の出し方, 強弱やリズムなどを工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな声や楽器の音の様々な特徴に気付き, それを生かして音遊びをしている。

第3学年 A 表現 (1) 歌唱

題材名「拍の流れにのって」 教材名「茶つみ」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の歌唱の指導事項】

- ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。
- イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
- ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。
- エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ウ

- ・フレーズの最初の \downarrow を感じ取って歌ったり、リズムにのって歌ったりする。
- ・明るくのびのびとした自然で無理のない歌い方をする。

【第3学年の歌唱共通教材】

「うさぎ」	(日本古謡)				
「茶つみ」	(文部省唱歌)				
「春の小川」	(文部省唱歌)	たかの 高野	たつゆき 辰之	作詞	おかの 岡野
「ふじ山」	(文部省唱歌)	いわや 巖谷	さざなみ 小波	作詞	ていいち 貞一
				作曲	

茶つみ

文部省唱歌

- 一、夏も近づく 八十八夜
野にも山にも わかばがしげる
あれに見えるは 茶つみやないか
あかねだすきに すげのかさ
- 二、ひよりのつづきの 今日このごろを
心のどかに つみつ歌う
つめよつめつめ つまねばならぬ
つまにや 日本の茶にならぬ

「五月半ばに静岡を通りや
汽車の中まで茶の香り」
と、お茶師さんの口から唄がでるほど静岡
はお茶どころです。天竜川、大井川、安倍
川、富士山麓と汽車の車窓からは、お茶畑
が途切れることなく続きます。五月節句の
頃になると、潮かおる海辺の村から娘たち
が大勢して大井川や天竜川沿いにお茶摘み
に上りました。茶娘たちと恋におちた村の
若者は、収穫も終え、川を下ってしまつた
娘たちの残した笠と茶摘み籠を見ながら、
涙を流しました。

「静岡県こころのうた」

静岡県教育委員会 平成八年発行

第3学年 A 表現 (1) 歌唱

題材名「曲の山を工夫しよう」 教材名「ふじ山」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の歌唱の指導事項】

- ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。
- イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
- ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。
- エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア, イ

- ・楽譜に対する関心を高め、ハ長調の視唱に慣れ親しみ、旋律の表現を豊かにする。
- ・歌詞の内容や旋律の抑揚から雄大さを感じ取り、曲の山の歌い方を工夫する。

【第3学年の歌唱共通教材】

「うさぎ」	(日本古謡)					
「茶つみ」	(文部省唱歌)					
「春の小川」	(文部省唱歌)	たかの 高野	たつゆき 辰之	作詞	おかの 岡野	ていいち 貞一 作曲
「ふじ山」	(文部省唱歌)	いわや 巖谷	さざなみ 小波	作詞		

ふじ山

文部省唱歌
作詞 巖谷小波
作曲 不詳

- 一、頭を雲の上に出し
四方の山を見下ろして
かみなりさまを 下に聞く
ふじは 日本一の山
- 二、青空高く そびえ立ち
体に雪の きものきて
かすみのすそを 遠くひく
ふじは 日本一の山

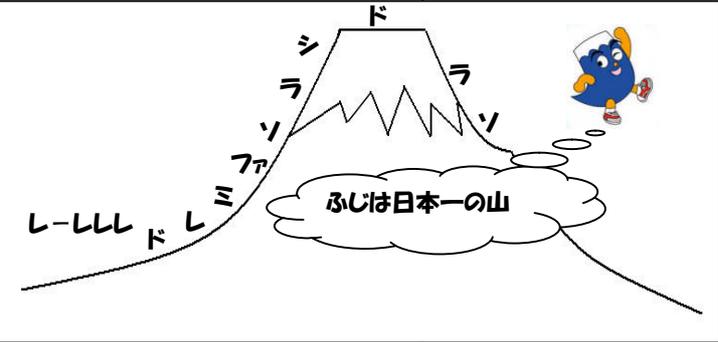
明治四十三年七月、文部省唱歌として制定され
『尋常小学校読本唱歌』第四巻に掲載された。

標高三七七六メートルの富士山は日本一の山です。しかも高さばかりか、その姿や形も日本一の美しさを誇り、孤高の美しさを保っています。広大な裾野を従えてそびえる富士山の歌は、昔から数えきれないほどうたわれ、親しまれてきました。その多くは孤高の美しさに心打たれての思いが込められており、富士の崇高さに近づきたいという願望も含まれています。

「静岡県こころのうた」

静岡県教育委員会平成八年発行

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ふじ山」の楽曲の感じをつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いて感じたことを発表する。 ・ 歌詞を読み、全体の内容を理解する。 ・ 富士山について知っていることを伝える。 ・ 写真や歌詞を基に、富士山の景色や歌詞に表現されている情景を想像する。 ・ 楽譜を目で追いながら歌う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 階名で歌ったり、歌詞で歌ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴唱したり視唱したりしながらハ長調の階名唱に慣れる。 ・ 姿勢や口の開け方や発音に注意して歌う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞と旋律やリズムとの関連を感じ取り、楽しく読譜しながら歌い方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手でリズム打ちをしたり「タン」や「タタ」で歌ったりしながら、曲の特徴を見付ける。 ・ ♩ ♪ ♫ を ♪ ♫ ♪ ♫ で歌ってみて、リズムの違いによる曲想の違いを感じ取る。 ・ 第4フレーズの ♩ ♪ ♫ を ♪ ♫ ♪ ♫ で歌ってみて、最後に二分音符で歌うよさや面白さを感じ取る。（“ふじ”の声のイメージを持つ） 	旋律 リズム
<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の山（一番盛り上がる場所）を見付け、表現を工夫して歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律曲線を描いたり旋律の音の高さを手の動きで表したりして、曲の山を考える。 ・ 曲の山をどのように歌うのかを考え、言葉などで表現する。 ・ 話し合ったことを基に、曲想にふさわしい強弱表現を工夫して歌う。 ・ グループごとに表現を聴き合って、よさを見付ける。 	旋律 強弱

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う学習に進んで取り組もうとしている。 ・ 歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って歌う学習に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律、リズム、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌っている。 ・ 「ふじ山」の歌詞の内容、曲想にふさわしい表現で歌っている。

前出の「茶つみ」にも ♩ ♪ ♫ のリズムが多用されています。あえて ♪ ♫ ♪ ♫ のリズムで歌ってみるなどして、♩ ♪ ♫ のリズムが生み出すよさや面白さを感じ取りたりしながら、楽譜と音との関連を意識した学習指導を展開し、楽しく読譜することに慣れるようにしていきましょう。

第4学年 A 表現 (1) 歌唱

題材名「音の重なりを感じ取って」 教材名「もみじ」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の歌唱の指導事項】

- ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。
- イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
- ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。
- エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → エ

- ・歌詞と旋律、旋律と副次的な旋律の関連などを感じ取って、歌詞の内容にふさわしい表現をすること。
- ・互いの旋律を聴き合いながら二部合唱すること。

【第4学年の歌唱共通教材】

「さくらさくら」(日本古謡)

「とんび」 くずはら 葛原しげる 作詞 やなだ 梁田 ただし 貞 作曲

「まきばの朝」(文部省唱歌) ふなばし 船橋 えいきち 栄吉 作曲

「もみじ」(文部省唱歌) たかの 高野 たつゆき 辰之 作詞 おかの 岡野 ていいち 貞一 作曲

一、 秋の夕日に
照る山もみじ
こいもうすいも
数ある中に
まつをいろどる
かえでやつたは
山のふもとの
すそもよう

二、 谷の流れに
散りうくもみじ
波にゆられて
はなれてよって
赤や黄色の
色さまさまに
水の上にも
おるにしき

もみじ

文部省唱歌
作詞 高野辰之
作曲 岡野貞一

第4学年 A 表現 (1) 歌唱 (2) 器楽

題材名「曲の仕組みを見つけよう」 教材名「とんび」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の歌唱の指導事項】 【第3学年及び第4学年の器楽の指導事項】

<p>ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。</p> <p>イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。</p> <p>ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。</p> <p>エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。</p>	<p>ア 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。</p> <p>イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。</p> <p>ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。</p> <p>エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。</p>
---	---

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 【歌唱】 → ア, イ 【器楽】 → エ

- ・ 歌詞で歌ったり、ハ長調の階名で歌ったりする。
- ・ とんびの鳴き声の部分の掛け合いの表現を工夫する。
- ・ 主旋律に合わせて、リコーダー等の楽器で副次的な旋律を演奏する。

【第4学年の歌唱共通教材】

「さくらさくら」 (日本古謡)

「とんび」

「まきばの朝」 (文部省唱歌)

「もみじ」

	<small>くずほら</small>			<small>やなだ</small>	<small>ただし</small>	
	葛原しげる	作詞		梁田	貞	作曲
				<small>ふなぼし</small>	<small>えいきち</small>	
				船橋	栄吉	作曲
	<small>たかの</small>	<small>たつゆき</small>		<small>おかの</small>	<small>ていいち</small>	
	高野	辰之	作詞	岡野	貞一	作曲

二、飛ぶ飛ぶとんび 空高く
 鳴く鳴くとんび 青空に
 ピンヨロー ピンヨロー
 ピンヨロー ピンヨロー
 楽しげに 輪をかいて

一、飛べ飛べとんび 空高く
 鳴け鳴けとんび 青空に
 ピンヨロー ピンヨロー
 ピンヨロー ピンヨロー
 楽しげに 輪をかいて

とんび

作詞 葛原しげる
 作曲 梁田貞

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<ul style="list-style-type: none"> ○ とんびの映像や鳴き声を視聴し、曲に対するイメージを膨らめる。 ○ 範唱を聴いて、歌詞や旋律を覚える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱と合わせて歌ったり、楽譜を見て階名で歌ったりする。 ・ 音が跳躍している部分や3小節と7小節の似た音の動きなどを正しく歌えるようにする。 ○ 歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の表す様子を想像し、何羽のとんびが飛んでいるか、どのように飛んでいるのかなどを考えながら、第3フレーズの「ピンヨロー」の問いと答えの部分について強弱表現を工夫する。 ・ 強弱表現の工夫について、なぜそうしたか自分の思いや意図を友達と伝え合う。 ・ 第1フレーズと第2フレーズが繰り返されていることや第4フレーズも似ていることを知覚し、どのように表現したいのか考える。 ・ 旋律を蛍光ペンでなぞったり、旋律線を描いたりしながら旋律の動きを確認し、強弱表現と関連させながら表現を工夫する。 ○ リコーダーや鉄琴等の楽器で副次的な旋律を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜を見て、気付いたことを出し合う。 ・ 拍の流れにのって正しく演奏する。 ・ タンギングや音の長さ等に気を付けたり、音の出し方（鳴らし方）を工夫したりしながら、友達と音を合わせて演奏する。 ○ 歌唱とリコーダー等の楽器を合わせて、音の重なりを楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに音色を聴き合いながら演奏する。 ・ 発表を聴き合う活動を通して、音の重なりのおよさや美しさを味わう。 	<p style="text-align: center;">旋律</p> <p style="text-align: center;">旋律 問いと答え 強弱 フレーズ 反復・変化 問いと答え</p> <p style="text-align: center;">反復・変化 音の重なり</p>

【評価規準例】

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
歌 唱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う学習に進んで取り組もうとしている。 ・ 「とんび」の歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って歌う学習に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律、強弱、フレーズ、問いと答え、反復、変化、音の重なりなどの要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、「とんび」の歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌っている。 ・ 「とんび」の歌詞の内容、曲想にふさわしい表現で歌っている。
器 楽	<p style="text-align: center;">音楽への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主旋律を聴きながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 	<p style="text-align: center;">音楽表現の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主旋律を聴きながら、自分の音を合わせて合奏をしている。 	

「とんび」の第3フレーズは、「問いと答え」をどのように感じ取るかによって強弱表現が変わってきます。1小節ごとに *f*, *p*, *f*, *p* と工夫する場合は、1羽目の「ピンヨロー」に対して遠くにいたもう1羽が「ピンヨロー」と応えたと感じ取っているかもしれません。また、2小節ごとに「ピンヨローピンヨロー」「ピンヨローピンヨロー」と工夫する場合には、とんびの鳴き声が遠くの山々にこだましていると感じ取っているかもしれません。〔共通事項〕は、子どもがどのように聴き取り感じ取っているのかを見取る視点としても有効です。

決して、「問いと答え」という言葉や言葉の意味だけを教えるものではありません。

第5学年 A 表現 (1) 歌唱

題材名「様子を思い浮かべて」 教材名「冬げしき」

【第5学年及び第6学年の目標】

- (1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。

【第5学年及び第6学年の歌唱の指導事項】

- ア 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。
- イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
- ウ 呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。
- エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ

- ・歌詞が表す情景や気持ちを想像したり、言葉の意味や歌詞の内容を理解したりして歌う。
- ・拍の流れやフレーズ、強弱や速度の変化などを感じ取って歌い方を工夫する。

【第5学年の歌唱共通教材】

「こいのぼり」 (文部省唱歌)

「子もり歌」 (日本古謡)

「スキーの歌」 (文部省唱歌) はやし 林 りゅうは 柳波 作詞 はしもと 橋本 くにひこ 国彦 作曲

「冬げしき」 (文部省唱歌)

冬げしき

文部省唱歌

一、さざり消ゆる 港江の

船に白し 朝のしも

ただ水鳥の 声はして

いまだ覚めず 岸の家

二、からす鳴きて 木に高く

人は畑に 麦をふむ

げに小春日の のどけしや

返りざきの 花も見ゆ

三、あらし吹きて 雲は落ち

時雨ふりて 日はくれぬ

もしともしびの もれこずば

それと分かじ 野辺の里

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 「冬げしき」の楽曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱や参考演奏を聴いて、感じたことを話し合う。 ・ 旋律を階名で歌う。 <p>※この曲はハ長調なので、ハ音をドとして階名で歌う。 (冒頭部分：ドミソ ソーファミ レーミレシ ソ～)</p> <p>○ 歌詞の意味を理解し、1・2・3番それぞれの様子について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面や時間、聞こえてきそうな音や声、その場面を見ている自分の気持ちなどを言葉や絵などで表し、歌詞の内容を理解したり情景を想像したりする。 <p>○ 話し合った内容で表現の工夫に結び付けられる箇所を探し、思いや意図を持って表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強弱の変化で静かな様子とにぎやかな様子の違いを表す。 ・ 速度の変化で朝、昼、夜の様子の違いを表す。 <p>○ 音楽の仕組みに着目して、表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2小節ごとに息つきをする場合と4小節ごとに息つきをする場合のフレーズの違いを感じ取る。 ・ 1, 2, 4段目と3段目のリズムの違いや歌詞の違いに着目して、表現の仕方を考える。 ・ 旋律の音の動きと強弱記号との関係を確認する。 ・ 下のパートを歌い、二部合唱の響きや前半と後半の違いを味わう。 <p>○ 「赤いやねの家」と「冬げしき」の共通点と違う点を見つけ、「冬げしき」をどのように歌ったらよいか、思いや意図を持って表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拍子が同じことを知覚する。 ・ 反復や変化(形式)が似ていることを知覚する。 ・ ハ長調とハ長調の違いを知覚する。(※ハ長調についてはハに触れる程度) ・ 弾む感じとなめらかな感じの違いを知覚する。 	<p>旋律</p> <p>強弱 速度</p> <p>フレーズ</p> <p>変化</p> <p>旋律 強弱</p> <p>拍の流れ</p>

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「冬げしき」の歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図を持って歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律、強弱、速度、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、「冬げしき」の歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「冬げしき」の歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。

道徳の時間などとの関連

音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、音楽による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。

なお、音楽の共通教材は、我が国の伝統や文化、自然や四季の美しさや、夢や希望をもって生きることの大切さなどを含んでおり、道徳的心情の育成に資するものである。

小学校学習指導要領解説 音楽編 pp. 69～70

第6学年 A 表現(1) 歌唱 B 鑑賞

題材名「日本に古くから伝わる音楽」

教材名「越天楽今様」えてんらくいまよう「雅楽『越天楽』」

【第5学年及び第6学年の目標】

- (1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。

【第5学年及び第6学年の歌唱の指導事項】

【第5学年及び第6学年の鑑賞の指導事項】

<p>ア 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。</p> <p>イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。</p> <p>ウ 呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。</p> <p>エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。</p>	<p>ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。</p> <p>ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。</p>
--	--

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 【歌唱】→ イ 【鑑賞】→ イ

- ・日本に古くから伝わる雅楽に触れ、伝統的な音楽に親しむ。
- ・雅楽の雰囲気を感じ取り、日本に古くから伝わる歌の特徴を生かした歌い方を工夫する。
- ・楽器の音色の特徴や2曲の関連を理解しながら聴いたり歌ったりする。

【第6学年の歌唱共通教材】

「越天楽今様（歌詞は第2節まで）」	(日本古謡)	慈鎮 <small>じちん</small>	和尚	作歌		
「おぼろ月夜」	(文部省唱歌)	高野 <small>たかの</small>	辰之 <small>たつゆき</small>	作詞	岡野 <small>おかの</small>	貞一 <small>ていいち</small> 作曲
「ふるさと」	(文部省唱歌)	高野 <small>たかの</small>	辰之 <small>たつゆき</small>	作詞	岡野 <small>おかの</small>	貞一 <small>ていいち</small> 作曲
「われは海の子（歌詞は第3節まで）」	(文部省唱歌)					

越天楽今様 えてんらくいまよう
日本古謡
慈鎮和尚 作歌

一、春のやよいの
あけぼのに
よもの山辺を
見わたせば
花ざかりかも
白雲しらくもの
かからぬみねこそ
なかりけれ

二、花たちばなも
におうなり
のきのあやめも
かおるなり
夕ぐれさま様の
さみだれに
山ほととぎす
名のるなり

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 雅楽「越天楽」の鑑賞をする。(冒頭部分だけでもよい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこの国のいつ頃の音楽か、また、どうしてそう感じたのか、意見を出し合う。 ・映像や写真などで演奏している楽器や演奏形態を理解し、楽器の音色や曲の特徴を感じ取りながら聴く。 <p>○ 「越天楽今様」の楽曲の特徴をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱や参考演奏を聴き、主旋律を歌う。 ・歌詞の意味を理解する。 ・階名で歌い、この曲に使用されている音を確認する。(レミソラシの5音) ・リコーダーで主旋律を演奏する。(前半8小節でもよい) <p>※リコーダーで演奏することが目的ではなく、「越天楽」の鑑賞の際に<small>ひちりき</small>筆箒や<small>りゅうてき</small>龍笛の旋律を捉えやすくするためにリコーダー演奏を取り入れる。</p> <p>○ 雅楽「越天楽」と「越天楽今様」の共通部分に気付き、雅楽の特徴を感じ取りながら聴いたり歌ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽「越天楽」を聴き、「越天楽今様」の旋律が聞こえてくる箇所を見付ける。 ・「越天楽今様」の旋律が聞こえてきたら、ハミングや擬音で音色や旋律をまねしながら合わせて歌う。 ・リコーダーで旋律を演奏した場合と筆箒や龍笛で旋律を演奏した場合の雰囲気の違いを感じ取る。 ・旋律以外の楽器にも着目して聴き、自分のお気に入りの楽器(音色)を紹介し合う。 <p>○ グループで「越天楽今様」の表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律の歌い方や声の出し方、速度など雅楽「越天楽」の曲想を生かした表現を工夫する。 ・鍵盤ハーモニカで笙の雰囲気を出したり、筆箒の音色に近付けたりしながら雅楽の特徴を生かした表現を工夫する。 	<p>音色 旋律 速度</p> <p>旋律</p> <p>旋律</p> <p>音色</p> <p>音色</p> <p>音色 旋律 速度</p>

【評価規準例】

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
歌 唱	<ul style="list-style-type: none"> ・雅楽の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図を持って歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音色、旋律、速度など雅楽の雰囲気を醸し出している要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、雅楽の特徴を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雅楽の特徴を生かした表現で歌っている。
	音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力	
鑑 賞	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な楽器の音色や五音音階の旋律の関わり合いによってつくられる雅楽の特徴を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音色や旋律、速度など雅楽の雰囲気を醸し出している要素や「越天楽今様」の旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、雅楽の特徴を理解して聴いている。 	

< A 表現 >

(2) 器楽の活動を通して

* 小学校学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(4) 各学年の「A表現」の(2)の楽器については、次のとおり取り扱うこと。

ア 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、学校や児童の実態を考慮して選択すること。

イ 第1学年及び第2学年で取り上げる身近な楽器は、様々な打楽器、オルガン、ハーモニカなどの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。

ウ 第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵盤楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。

エ 第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、電子楽器、和楽器、諸外国に伝わる楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。

第2学年 A 表現 (2) 器楽

題材名「ききあいながらがっしょうしよう」 教材名「こぐまの二月」

【第1学年及び第2学年の目標】

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

【第1学年及び第2学年の器楽の指導事項】

- ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。
- イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。
- ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。
- エ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ウ, エ

- ・オルガンや鍵盤ハーモニカなどの音色に気を付けながら、簡単なリズムや旋律を演奏する活動を通して、楽器の演奏の仕方を身に付ける。
- ・伴奏の音や他のパートの音、歌声を聴きながら、自分の演奏を全体の中で調和させて演奏する。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<ul style="list-style-type: none"> ○ こぐまの様子を思い浮かべながら、範唱を聴いたり歌ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や歌詞から、こぐまの様子や気持ちを想像し、言葉で教師や友達に伝える。 ・歌に合わせてこぐまの動作をしながら、聴いたり歌ったりする。 ・音符や休符についての確認をする。 	拍の流れ
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主旋律を階名唱したり、鍵盤楽器で演奏したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師の範唱に続いて、階名唱をする。 ※階名唱の段階でも休符を意識して歌わせ、楽器の演奏に生かすようにする。 ・オルガン、鍵盤ハーモニカなどを使って演奏する。 ・伴奏に合わせ、拍ののって友達と合わせて演奏する。 ※鍵盤ハーモニカを使用するときは、同じ音が続く場合に、タンギングについてふれるとよい。 	旋律 拍の流れ
<ul style="list-style-type: none"> ○ 副次的な旋律を覚える。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師の範唱に続けて階名唱をする。 ・教師の演奏する主旋律に合わせて副次的な旋律を階名唱し、聴き合って歌う（演奏する）ことに慣れる。 	旋律

<ul style="list-style-type: none"> ・階名唱をしながらリズム打ちをし、正しいリズムを覚える。 ・副次的な旋律を鍵盤楽器で演奏する。 ※鍵盤楽器を用いる際は、運指についても指導を行う(低学年から少しずつ身に付けるようにしたい)。 ・伸ばす音や休符を意識しながら、リズムに気を付けて演奏する。 ※主旋律よりも休符や伸ばす音が多いので、休符や音符の長さをそろえることをより意識させる。これにより周りの声(音)を聴くことや自分の演奏を全体の中で調和させることにつなげる。 <p>○ 三つのパートを楽器で演奏したり、歌と楽器で合わせて演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律、副次的な旋律の特徴をそれぞれ確かめる。 ・三つのパートを楽器で合わせたり、歌と任意のパートとで合わせたりする。 ※歌に楽器の音色が重なるよさを感じ取らせたり味わわせたりする。 ・一人だけ大きな音を出さないように気を付けたり、音の長さや休符に気を付けたりして演奏する。 ・簡単なリズム伴奏をつくり、歌や楽器と合わせて演奏する。 (下記のリズム例 参照) ・音を聴き合って、演奏についての感想を伝え合う。 ・他のパートの音を聴きながら、自分のパートを合わせて演奏する。 <p>(例) </p>	<p>拍の流れ リズム</p> <p>旋律</p> <p>音色 リズム 拍の流れ</p>
--	--

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・オルガン、鍵盤ハーモニカなど身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単な旋律を演奏しようとしている。 ・自分の演奏や友達の演奏におけるいろいろな音の響きを聴きながら、自分の音を合わせて演奏しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な鍵盤楽器に親しみ、拍の流れにのって、音色に気を付けて簡単な旋律を演奏している。 ・自分の演奏する旋律と他の旋律とを聴き合いながら、自分の音を合わせて合奏している。

各学年の「A 表現」の(2)の楽器については、小学校学習指導要領解説音楽編の p.73(4)で詳しく示されています。

本事例でも、旋律の演奏については鍵盤楽器を扱うようにしています。視覚と聴覚の両面から音を確かめつつ演奏できる各種オルガンや鍵盤ハーモニカ、また、息の吹き吸いと楽器本体の移動によって演奏し、音に対する感覚面の育成に適しているハーモニカなど、児童にとって身近で扱いやすい楽器の中から、学校や児童の実態に応じて選ぶことが大切です。

第3学年 A 表現 (2) 器楽

題材名「ゆたかなひびきを味わおう」 教材名「パフ」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の器楽の指導事項】

- ア 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。
- イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
- ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
- エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア, エ

- ・ハ長調の楽譜を見て演奏する。
- ・主な旋律、副次的な旋律や様々な楽器の音色が生み出す響きやリズムを感じ取って演奏したり、合奏の楽しさを味わい気持ちを合わせて演奏したりする。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の感じをつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・範奏を聴いたり、歌詞から場面を想像したりして、曲の感じをつかむ。 ・いくつかのパートに分かれていることに着目しながら聴く。 ・主な旋律の音色に注意したり、楽譜を指でなぞったりしながら聴く。 ・曲の構成を考えながら聴く。 ・曲を聴きながら、楽譜に色を塗ったり印を付けたりして、旋律の同じ部分や違っている部分などを見付ける。 ○ 階名唱をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律の階名唱、その他のパートの階名唱をする。 ・範唱を手掛かりにして、階名唱をする。 ・楽譜を見て階名唱をする。 <p style="color: red;">※楽器演奏の場でも生かせるよう、階名唱をする際も、休符や音符の長さを意識して歌わせたり、旋律の特徴を感じ取らせたりする。</p> ○ 主旋律、副次的な旋律、低音パートを演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの旋律の特徴について捉え、その特徴に合った演奏を考える。 	<p>音色 旋律 反復</p> <p>旋律</p>

第5学年 A 表現 (2) 器楽

題材名「曲想を生かして演奏しよう」 教材名「キリマンジャロ」

【第5学年及び第6学年の目標】

- (1) 創造的に音楽にかかわり，音楽活動への意欲を高め，音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を高め，音楽表現の喜びを味わうようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし，基礎的な鑑賞の能力を高め，音楽を味わって聴くようにする。

【第5学年及び第6学年の器楽の指導事項】

- ア 範奏を聴いたり，ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。
- イ 曲想を生かした表現を工夫し，思いや意図をもって演奏すること。
- ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
- エ 各声部の楽器の音や全体の響き，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ，ウ

- ・曲の前半部分と後半部分との曲想の違いを感じ取り，合奏による表現の仕方を工夫する。
- ・スタッカートやレガートなど，楽曲の音楽的な特徴にふさわしい楽器の演奏の仕方を工夫する。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 範奏を聴いて，曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲全体から受けた感じや自分の気に入ったところなどを自由に発言する。 ・キリマンジャロ山の写真などを見たり，説明を聞いたりしてイメージを膨らめる。 ・曲を聴いた印象を発表し合い，今後どのようにこの楽曲を表現するかについてのイメージを共有していく。 ・音楽を形づくっている要素と結び付けながら，前半部分と後半部分の曲想の違いに気付く。 ・曲全体の構造に気付く。 	<p>リズム 旋律</p> <p>問いと答え 変化</p>
<p>○ 主旋律と副次的な旋律のパートを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱をしたり「La La La～」で歌ったりして旋律を覚える。 ・リズムや楽曲の構成（リコーダーと鍵盤ハーモニカの掛け合い，リピート等）を確認する。 ・リコーダーの運指，音を伸ばす長さ，スタッカート，タイ，ブレス位置などを確認するとともに，これらを意識しながら演奏する。 	<p>旋律 リズム 問いと答え 変化</p>

<p>○ 曲想を生かした表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前半部分と後半部分の曲想の違いについて話し合い、どのように演奏するか思いや意図を持つ。 表現を工夫する手掛かりを、楽譜や範奏を聴く中から見付け出す。 リズム、強弱、楽曲の構造などから、どの部分をどのように演奏していくかという演奏の意図を、意見を出し合って明確にしていく。 同じパートの中、あるいは全体で、互いに聴き合い試行錯誤しながら演奏の仕方を工夫する。 あえてスタッカート部分をレガートにしたり、<i>p</i> を <i>f</i> で演奏してみたりすることで、表現の工夫や曲想について考える。 二つのグループに分かれたり数人が代表になったりして聴き合う活動を行い、表現の工夫に結び付ける。 各パートの旋律の特徴に合った楽器を選んだり、音色やリズム、音量バランスに気を付けながら演奏したりする。 曲想に合わせて、強弱などの変化を付ける。 <p>○ リズム伴奏を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の例を参考に、曲想に合ったリズムパターンを考える。 部分的にリズム伴奏を取り入れたり、前半部分と後半部分で楽器の組合せや数を変えたりするなど、リズムの取り入れ方を工夫する。 1 番かっこ（反復記号）の続く感じや、2 番かっこ（反復記号）の終わる感じを表現できるようにする。 どのような曲想表現がされているかに気を付けて聴く。 	<p>問いと答え 変化</p> <p>強弱</p> <p>音色 リズム 強弱</p> <p>リズム 音色 強弱</p> <p>反復</p>
---	---

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> 前半部分と後半部分の曲想の違いを生かした表現やリズム伴奏を工夫し、思いや意図を持って演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 それぞれの旋律の特徴や、様々な旋律楽器や打楽器の音色の特徴を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音色、リズム、旋律、強弱、問いと答え、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、前半と後半それぞれの曲想を工夫するなど、考えや意図を持って取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前半部分の弾む感じ、後半部分の堂々とした感じなど、自分たちのイメージした曲想を生かした表現で演奏している。 演奏する楽器の特徴を生かして、鍵盤ハーモニカ・リコーダーなどの旋律楽器や打楽器を演奏している。

< A 表現 >

(3) 音楽づくりの活動を通して

* 小学校学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(5) 音楽づくりの指導については、次のとおり取り扱うこと。

ア 音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音を探したりして、音楽づくりのための様々な発想ができるように指導すること。

イ つくった音楽の記譜の仕方について、必要に応じて指導すること。

ウ 拍節的でないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを児童の実態に応じて取り上げるようにすること。

第1学年及び第2学年 A 表現 (3) 音楽づくり

題材名「いろいろな音をさがそう」 教材名「学校できこえる音」

【第1学年及び第2学年の目標】

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

【第1学年及び第2学年の音楽づくりの指導事項】

- ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。
- イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。

【指導に当たって】

- ア 身の回りの様々な音について、それぞれの音に特徴があることや一つの音の素材から様々な音が出せることなどに気付き、音の面白さや豊かさを味わうようにする。
- イ 児童が見付けた様々な音を用いるようにするなど、自らが音に働き掛けて音を音楽にしていく過程を楽しむようにする。その際、教師は児童の感じ方や表現の良さを積極的に認めていくことが大切。
- ・児童一人一人の発想のよさを認め、それらを共有するような活動を考えることが大切である。
 - ・視唱や視奏の活動において、つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり、その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。

【ア 音遊びの例】

- ・リズムを模倣したり、言葉を唱えたり、そのリズムを打ったりする遊び
- ・言葉の抑揚を短い旋律にして歌う遊び
- ・身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから気に入った音を見付ける遊び
- ・体の動きに合わせて声や音を出す遊び など

【イ 活動の例】

- ・わらべうたに使われている音を用いて、問いと答えになるような短い旋律をつくる活動
- ・短いリズムをつくり、それを反復したりつないだりして簡単な音楽にする活動 など

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・自分たちの身の回りには様々な音があることに気付く。
- ・自分たちの身の回りにある音を見付け、友達と約束事を決めて身近な音素材を用いて表現する活動を通して、音の持っている特徴の面白さに気付く。

【学習の流れ（例）】

学 習 の 流 れ (例)	〔共通事項〕との関連
<p>《題材を設定するに当たって》</p> <p>子どもたちは日々、様々な音に囲まれて生活している。しかし、音の存在を意識せずに生活している場合がほとんどである。子どもたち自らが音の存在に気付き、その音が持つ固有の特徴を生かして表現を工夫する楽しさを味わうことは、音楽を自らの側に引き寄せて楽しもうとする主体的な態度を育成することにつながっていく。</p> <p>子どもたちは、自分たちが生活する学校にどんな音があるのかを見付けていく。印刷室から聞こえてくる印刷機の音。給食室から聞こえてくる調理や食器を洗浄する音。体育館の体育の授業で聞こえてくる音。いろいろな場面の始まりや終わりを知らせるチャイムの音。このように、学校には子どもたちにとって魅力的な音があふれている。</p> <p>子どもたちは、友達と協力しながら音を見付けていく。見付けた音を自分たちなりの方法（記号や図形、文字や数字等）で記録する。採取した音の記録を基に、声や体でつくる音、身近な音素材、楽器等を使って再現していく。楽器以外にも音として楽しめる素材がたくさんあることに気付かせながら、この音遊びの時間を十分に楽しませたい。こうした活動を通して、音の持つ特徴の面白さ、つくって表現する楽しさを存分に味わわせたい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校を探検し、いろいろな場所から聴こえてくる音を集める。 <ul style="list-style-type: none"> ・耳を澄まし、学校にある音を見付けてくる。 ・必要に応じてメモをとれるようにしておく。 ・できるだけ多くの場所で音を集められるようにする。 ・どこでどのような音が聴こえてきたか発表する場を設定する。 ○ 一番心に残った場所の音を再度注意深く聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・改めて注意深く聴くことで、音の特徴に気付くようにする。 ・様々な音が複雑に重なる場合は、教師が補助しながら整理する。 <p>※自分たちなりの方法で記録することを伝えてから活動に移る。</p> ○ 集めた音を自分たちなりの方法で記録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・形式にとらわれず、子どもたちが思い思いの絵や記号、図形や文字等を自由に使ってかく。 ○ 記録を基に、聴こえてきた音をつくって表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながらお気に入りの音を再現する。 ・身近な音素材や楽器を自由に扱いながら、自分たちの思いを表現できるよう工夫していく。 <p>※鳴らし方や回数、順番等、同じ演奏が行える(再現性のある)ことを条件として与え、演奏の約束として押さえる。</p> <p>※できるだけ規制を加えず、音をつくって表現する活動を楽しませる。</p> ○ 「学校できこえる音」発表会を開く。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの求めに応じて発表の場を設定する。 ・友達のつくった音や音楽のよさや、もっとよくしたいところなどを発表する。 <p>※押さえない[共通事項]に即して意見を発表できるよう板書等を工夫する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活にある音の面白さに興味・関心を持ち、音遊びに進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活にある音の音色、リズム、強弱等様々な特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音の出し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活にある音の様々な特徴を生かして音遊びをしている。

第3学年及び第4学年 A 表現 (3) 音楽づくり

題材名「思いを旋律であらわそう」 教材名「オリジナルチャイム」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の音楽づくりの指導事項】

- ア いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。
- イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。

【指導に当たって】

- ア 一つの楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることによって響き方が異なったり、楽器の材質の違いによって音の特徴や雰囲気が異なったりすることに気付くように配慮する。
- イ 反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、音楽の始め方や終わり方を意識して、まとまりのある音楽をつくるようにする。
- ・児童一人一人の発想のよさを認め、それらを共有するような活動を考えることが大切である。
 - ・視唱や視奏の活動において、つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり、その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。

【ア 即興的な表現の例】

- ・木、金属、皮など同じ材質のものを使ったり、あるいは異なった材質のものを組み合わせて使ったりして生じるそれぞれの音の響きを生かして表現する活動
- ・線や図形、絵などを楽譜に見立てて声や楽器などの音で表す活動
- ・自分の工夫した音をみんなで模倣したり、自分の工夫した音を使って友達と音で会話したりする活動 など

【イ 活動の例】

- ・問いと答えになるようなリズムや旋律をつくり、それを反復させたり変化させたりする活動
- ・我が国の音楽に使われているような五音音階などを使って簡単な旋律をつくり、それをつないだり音を重ね合わせたりする活動
- ・擬声語や擬態語など、言葉をリズムにのせて反復したり組み合わせたりする活動 など

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ

- ・旋律は、音の配列によって構成されることに気付く。
- ・同じ旋律も、音色や速度、リズムを工夫して表現することにより、受ける感じが異なることに気付く。
- ・上記のような音楽を形づくっている要素や仕組みを工夫することで、自分の思いを音楽として表現できることに気付く。

【学習の流れ（例）】

学 習 の 流 れ (例)	[共通事項] との関連
<p>《題材を設定するに当たって》</p> <p>子どもたちの生活にはチャイムなどの合図の音がある。「やったあ、昼休みだ!」「大好きな給食の時間だ。」「苦手な算数が始まってしまった…。」「遅刻しちゃう!」など、チャイムの音は、その場面や聞き手によって受ける印象が全く違う。その時の場面や思いをチャイムで表すことにより、どのような気持ちでその場面を迎えているか、聞き手に伝わるような音楽づくりを行う。</p> <p>音の配列を工夫して旋律をつくったり、より思いを込めた音楽として表現するための音色や速度、リズム等を吟味したりする活動を通して、一人一人が自分の思いを納得のいく音で表現する楽しさを味わえるようにする。また、チャイムの規則的な音の配列やリズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、反復や問いと答え、変化など、音楽の仕組みを工夫する活動も考えられる。</p>	
<p>○ 学校のチャイムの旋律を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイムから受ける印象を話し合う。 ・ピアノやオルガン等の鍵盤楽器でチャイムを演奏してみる。 ・旋律やリズム、速度を変化させ、雰囲気の違いを楽しむ。 <p>※チャイムに和音を付けたり、リズムを変えたり、短調にアレンジしたりしたものを例示し、受ける印象を話し合うとともに、子どもたちも自由な発想で即興的な演奏を楽しむ。</p> <p>○ 学校生活のお気に入りの場面のチャイムづくりを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの場面の始まり（終わり）を告げるチャイムかを決める。 ・場面の雰囲気に合った旋律づくりを楽しむ。 ・表現する楽器など、音色を吟味する。 ・音の並べ方や速度、リズムを工夫する。 ・規則的な音の配列やリズムを用いる場合は、音楽の仕組みにも着目する。 ・友達と聴き合いながら旋律を再吟味したり表現を工夫したりする。 <p>※チャイムの特徴として、極力短い旋律でつくるようにする。</p> <p>※子ども一人一人の発想のよさを認め、表現したい場面への思いを明確にする。</p> <p>※表現したい場面について伝え合ったり、互いの音楽を聴き合ったりする活動を適切に位置付ける。</p> <p>※つくった音楽を必要に応じて視覚的に捉えたり、音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するように支援する。</p> <p>○ 発表会を開く。</p> <p>※子どもたちのつくったチャイムを実際に校内に流すことも想定する。</p>	<p>旋律 音色 リズム 速度</p> <p>旋律 音色 リズム 速度</p> <p>反復 問いと答え 変化</p>

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>・音楽の仕組みを生かし、場面に合ったチャイムにすることに興味・関心を持ち、思いや意図を持って音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>・旋律、音色、リズム、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、場面に合ったチャイムにするために、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図を持っている。</p>	<p>・音楽の仕組みを生かし、場面に合ったチャイムになるようまとまりのある音楽に構成している。</p>

第3学年及び第4学年 A 表現 (3) 音楽づくり

題材名「息の響きを楽しもう」 教材名「世界にひとつだけの楽器」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の音楽づくりの指導事項】

- ア いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。
- イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。

【指導に当たって】

- ア 一つの楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることによって響き方が異なったり、楽器の材質の違いによって音の特徴や雰囲気がいなったりすることに気付くように配慮する。
- イ 反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、音楽の始め方や終わり方を意識して、まとまりのある音楽をつくるようにする。
- ・ 児童一人一人の発想のよさを認め、それらを共有するような活動を考えることが大切である。
 - ・ 視唱や視奏の活動において、つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり、その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。

【ア 即興的な表現の例】

- ・ 木、金属、皮など同じ材質のものを使ったり、あるいは異なった材質のものを組み合わせて使ったりして生じるそれぞれの音の響きを生かして表現する活動
- ・ 線や図形、絵などを楽譜に見立てて声や楽器などの音で表す活動
- ・ 自分の工夫した音をみんなで模倣したり、自分の工夫した音を使って友達と音で会話したりする活動 など

【イ 活動の例】

- ・ 問いと答えになるようなリズムや旋律をつくり、それを反復させたり変化させたりする活動
- ・ 我が国の音楽に使われているような五音音階などを使って簡単な旋律をつくり、それをつないだり音を重ね合わせたりする活動
- ・ 擬声語や擬態語など、言葉をリズムにのせて反復したり組み合わせたりする活動 など

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・ 息を使った音の響きに関心を持ち、自分の息でいろいろな響きを生み出せることに気付く。
- ・ 息の響きを生かして音色、リズム、強弱、音の重なりなどを工夫し、情景や場面に合う音楽を表現できる面白さに気付く。
- ・ 様々な表現技法と向き合い、表現へのこだわりや思いを強める。

第5学年及び第6学年 A 表現 (3) 音楽づくり

題材名「お話と音楽」 教材名「紙芝居音楽」

【第5学年及び第6学年の目標】

- (1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。

【第5学年及び第6学年の音楽づくりの指導事項】

- ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。
- イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

【指導に当たって】

- ア 今までの音楽経験を生かして、児童が音楽的な約束事を決めて表現を工夫したり、いろいろな音楽の中から即興的な表現を見つけて表現の工夫に生かしたりする。
- イ 児童が明確な考えや願い、意図をもつようにし、それを実現するために必要な音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを選んだり組み合わせたりして、まとまりのある音楽になるようにする。
- イ 互いの表現を聴き合い、よさを認めたり、意見を述べたりして、よりよい表現を目指すようにする。
- ・児童一人一人の発想のよさを認め、それらを共有するような活動を考えることが大切である。
 - ・視唱や視奏の活動において、つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり、その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。

【ア 即興的な表現の例】

- ・身の回りの楽器を使ってその楽器が出せる様々な音を探る活動
- ・自分の工夫した音を使って友達と音で会話する活動
- ・自分の工夫した音を反復したり友達の工夫した音と組み合わせたりする活動 など

【イ 活動の例】

- ・自分たちで選んだ音階を用いて旋律をつくったり、それに反復や変化を加えたりする活動
- ・いくつかのリズム・パターンを重ねたり組み合わせたりする活動
- ・(上記の作品の)構成を工夫し、まとまりのある音楽をつくる活動 など

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア, イ

- ・場面の様子や登場人物の気持ちを表すのに効果的な音楽があることに気付く。
- ・場面の様子や登場人物の気持ちを表すために、様々な音楽を形づくっている要素に働き掛け、即興的に表現する。
- ・今までに習得したいろいろな音楽表現を活用し、紙芝居を見る(聴く)立場から自分たちの表現を見つめ、紙芝居がより楽しめるような効果的な音楽表現を工夫する。

【学習の流れ（例）】

学 習 の 流 れ (例)	[共通事項]との関連
<p>○ 音楽紙芝居と出会う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメや映画にBGMや効果音が使われていることに気付き，1年生にプレゼントする紙芝居を音楽で飾っていく意欲を持つ。 ・場面や登場人物の気持ちによってBGMが変わったり効果音が使われていたりすることに気付く。 <p>○ 紙芝居を選び，音楽を付ける場面を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴く対象を明確にして素材を選ぶようにする。 ・グループごとに一つの紙芝居を場面で分けたり，いくつかの紙芝居のお気に入りの場面を取り上げたりして，音楽を効果的に生かせる素材を選ぶようにする。 <p>※他教科とのタイアップも考えられるが，既製の紙芝居を使うなど，音楽の授業では音楽づくりに集中できるよう配慮する。</p> <p>○ どの場面に，どのような音楽や効果音を入れていくかを構想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音を出すタイミングや音色，強弱，音の組合せなどを工夫する。 ・場面や登場人物の気持ちと音階や調との関係を意識して音を選ぶ。 ・できた旋律やリズムに反復や変化を加えて，気持ちや場面にふさわしい音楽を工夫する。 ・BGMや効果音だけではなく，物語や主人公のテーマなどもつくる。 ・記譜の仕方を工夫する。 <p>○ 他のグループと互いに発表し合ったり聴き合ったりして，全体の流れやまとまりを意識しながら表現を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を鑑賞する1年生の立場で意見交換しながら，作品を仕上げていく。 ・1年生を楽しませることを意識して音楽づくりを工夫する。 <p>○ 1年生を招待して紙芝居発表会を開く。</p>	<p>音色 リズム 速度 旋律 強弱 和声の響き 反復 問いと答え 変化 音楽の縦と横の関係</p>

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を飾る様々な音楽表現に興味・関心を持ち，即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・音楽の仕組みを生かし，音を音楽に構成することに興味・関心を持ち，見通しを持って音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，様々な音楽表現や音楽の仕組みを生かし，音を音楽に構成するための試行錯誤をし，紙芝居の場面に合う音楽やテーマ音楽をどのようにつくるかについて発想や考え，意図，見通しを持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音楽表現から得た発想を生かして，紙芝居の場面（自然，情景，人の気持ちや心の変化など）に合う音楽を即興的に表現している。 ・紙芝居の展開に沿って，音楽の仕組みを生かし，見通しを持って音を音楽に構成している。

< B 鑑賞 >

(1) 鑑賞の活動を通して

第1学年 B 鑑賞

題材名「ようすをおもいうかべて」

教材名「おどるこねこ」アンダソン作曲

【第1学年及び第2学年の目標】

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

【第1学年及び第2学年の鑑賞の指導事項】

- ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。
- イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。
- ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア, ウ

- ・楽曲の流れを感じ取りながら、こねこが踊る様子や逃げる様子を想像し、聴く楽しさを味わう。
- ・音楽を聴いて想像したことや感じ取ったことを体の動き、擬声語、言葉などで身近な相手に伝えるなどの活動を通して、聴く楽しさに気付く。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 「おどるこねこ」を聴いて、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none">・音色や旋律から曲の気分を感じ取る。・特徴のある旋律や音色に着目する。・音色、旋律などから感じたり想像したりしたことを話す。・教科書の挿し絵を見ながら聴き、感じたことや想像したことを話す。・「おどるこねこ」を聴いて、こねこのどのような様子を思い浮かべたか伝え合う。・旋律に繰り返しの部分があることに気付く。	音色 旋律 問いと答え
<p>○ 「おどるこねこ」の曲に合わせた体の動きを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">・曲の気分に合わせて体を動かしたり、動き方を想像して友達と一緒に踊ったりする。・旋律の動きや速度の変化を感じ取り、こねこの踊る様子を想像して動く。	反復 旋律 速度

<p>○ 主な旋律の音色や、曲全体の気分について感じたことを言葉で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いてこねこのどのような様子を思い浮かべたか伝え合ったり、想像したことを絵に表して見せ合いながら話したりする。 ・曲の気分を感じ取り、そこから想像したストーリーなどを教師や友達に紹介する。 ・曲の中の好きな部分について言葉で表現し、教師や友達に伝える。 <p>※思い浮かべたり想像したりしたことについては、どうしてそう思ったか問い掛ける。</p>	<p>音色 リズム 旋律 反復 問いと答え</p>
---	---

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いて、曲の気分に合わせて体を動かしたり、こねこが踊るまねをしたりするなど、楽曲の楽しい気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ・「おどるこねこ」を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉や動き、絵などで表す活動に、進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おどるこねこ」の楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴いている。 ・音色、リズム、旋律、拍の流れ、反復などの関わり合いから、こねこの踊る様子などの想像したことや感じ取ったことを言葉や体の動きで表し、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴いている。

低学年では、音楽を聴く楽しさを十分に味わうようにすることが重要です。そのためには、子どもたちが思いを広げながら楽曲の気分を感じ取って聴いたり、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取って聴いたりすることができるような学習活動の工夫・教材選択の工夫が大切になります。

鑑賞の授業に限らず、動物のまねをしながら曲に合わせて動く活動はよく取り入れられています。活動するうちに、動物のまねをすることが中心になってしまっている場合もあります。体を動かす活動は、それ自体をねらいとするのではなく、音楽を感じ取るための手だての一つです。「楽曲の気分を感じ取って聴く」「音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取って聴く」という趣旨を踏まえた体験活動であるので、子どもたちが、楽曲の何を感じ取って体を動かしたり絵で表したりしているのかを見取り、的確な働き掛けをしていきましょう。

第4学年 B 鑑賞

題材名「日本の民謡に親しもう」

教材名「ソーラン節」「南部牛追い歌」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の鑑賞の指導事項】

ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア、イ、ウ

- ・日本の民謡のよさや面白さに気付き、親しむ。
- ・日本の民謡の旋律やリズム、拍の流れなどの特徴を感じ取り、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴く。
- ・いろいろな日本の民謡や郷土の音楽、外国の民謡などに興味を持って比べて聴き、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴く。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 「ソーラン節」を聴き、曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none">・全体を通して聴き、知っていることや感じたことを出し合う。・歌詞を提示し、どのような場面で何をしているのか、想像しながら聴く。・映像や写真などから、どのような場で何をしているのか、曲名や北海道民謡ということも確認する。・印象的な部分の旋律や合いの手、掛け声などをまねしたり、手拍子などをしたりしながら聴く。 <p>○ 「南部牛追い歌」を聴き、曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none">・全体を通して聴き、気付いたことや感じたことを出し合う。・歌詞を提示し、どのような場面で何をしているのか、想像しながら聴く。・映像や写真などから、どのような場で何をしているのか、曲名や岩手県民謡ということも確認する。・冒頭部分や最後の部分を一緒に口ずさみながら聴く。	<p>ここでは楽曲を分析的に聴くのではなく、楽曲全体を味わい、日本の民謡を聴く楽しさに気付くようにするため、あえて〔共通事項〕を示していません。</p> <p>歌詞や曲の雰囲気から情景や様子を思い浮かべ、長い年月にわたって歌い継がれてきた日本の民謡に親しませるようにしましょう。</p>

<p>○ それぞれの曲を聴きながら、二曲の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の音の動きを線や図で表し、その違いを言葉で説明する。 ・リズムを手で打つなどして、その違いを言葉で説明する。 ・その他、歌い方（声の出し方）や速度など、気付いたことを出し合う。 ・それぞれの曲の感じの違いを、観点ごとにとらえた言葉を使って表す。 ・「私は〇〇の方が好きです。なぜなら……」というような形で自分の意見をまとめ、友達と伝え合う。 <p>※2曲を比べてまとめられるようなワークシートを工夫する。 ※意見をカードにまとめ、掲示するなどして、いろいろな感じ方や捉え方があることに気付くよう工夫する。</p> <p>○ 他の日本の民謡や郷土の音楽、外国の民謡などと聴き比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本各地の民謡や郷土に伝わる民謡を聴き、「ソーラン節」型と「南部牛追い歌」型に分類し、何を感じ取って分類したのかを明確にする。 ・各地の郷土の音楽や祭り囃子などを聴き比べ、特徴を感じ取ったり、それらの曲について調べたりする。 ・外国の民謡を日本の民謡と聴き比べ、違いや気付いたことを伝え合う。 ・普段聞き慣れている音楽との違いや気付いたことを伝え合う。 	<p>旋律 リズム 拍の流れ 音色 速度</p> <p>旋律 リズム 拍の流れ 音色 速度</p>
---	---

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・対極的な二つの日本の民謡の曲想を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ・旋律、リズム、拍の流れ、音色や速度などの関わり合いによってつくられる楽曲の特徴に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対極的な二つの日本の民謡の旋律、リズム、拍の流れ、音色や速度などを聴き取り、それらの働きが生み出す違いや面白さなどを感じ取りながら、言葉で説明したりワークシートにまとめたりするなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。 ・他の日本の民謡や郷土の音楽、外国の民謡などを比べて、それぞれの違いや気付いたことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。

全く違う曲調の曲を比べて聴く時に、同じ観点で聴く、つまり同じ〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素に着目して聴くことによって、その違いや共通点がより明確になります。そのため、音楽を形づくっている要素の関わり合いのうち、感じ取りやすいものを取り上げ、それらに気付いて聴く喜びを味わうようにすることが必要となってきます。

指導する際は、主な旋律を口ずさんだり楽器で演奏したりして親しむようにしたり、音楽に合わせて体を動かす活動、学習カード、板書などを工夫して、楽曲の構造に気付くようにすることが大切になります。

平成20年の学習指導要領改訂により、鑑賞教材選択の観点について、これまで第5学年及び第6学年に位置付けられていた「和楽器の音楽を含めた我が国の音楽」が、第3学年及び第4学年にも新たに位置付けられました。教育基本法の改正や学校教育法の改正を受けて、我が国や郷土の伝統音楽の指導の充実が求められています。民謡を歌ったり聴いたりする機会が減っている児童にとって、このような鑑賞の時間は、日本の伝統音楽に触れることのできる貴重な時間といえます。

第5学年 B 鑑賞

題材名「いろいろな音が重なるひびきを味わおう」

教材名「双頭の鷺^{わし}の旗の下に」 J. F. ワーグナー作曲

「アイネ クライネ ナハト ムジーク」 モーツァルト作曲

【第5学年及び第6学年の目標】

- (1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。

【第5学年及び第6学年の鑑賞の指導事項】

- ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。
- イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。
- ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ, ウ

- ・吹奏楽と弦楽合奏の楽曲を聴いて、重なり合う音の響きから感じ取ったことの原因を、旋律やリズムの重ね方の違いから見付けて、自分の意見や感想を持つ。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 楽器の音の重なりに着目して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none">・二つの楽曲のそれぞれ始めの部分だけを聴き、吹奏楽や弦楽合奏における楽器の音色の違いを感じ取る。・「双頭の鷺の旗の下に」が、第3学年・第4学年で学習してきた金管楽器と木管楽器に、打楽器を加えた吹奏楽の編成により演奏されていることを確認し、それぞれの楽器が三つの部分でどのように使われているかに注目して聴く。・「アイネ クライネ ナハト ムジーク」が、第3学年・第4学年で触れてきたヴァイオリンとチェロに、ヴィオラとコントラバスを加えた弦楽合奏の編成により演奏されていることを確認し、それぞれの楽器が冒頭(序奏及び第1主題)部分でどのように使われているかに注目して聴く。・吹奏楽と弦楽合奏の楽器編成の違いや響きの違いに気をつけて、2曲を通して聴く。	音色

<p>○ 楽曲の構成や仕組みに着目して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの楽曲のそれぞれ始めの部分だけを聴き、吹奏楽や弦楽合奏の音の重なり方による違いを感じ取る。 ・「双頭の鷲の旗の下に」の曲全体がいくつの部分（*ここでは大きく三つの部分）からできているかを確認し、それぞれの部分が何回出てくるか確かめながら聴く。 ・「アイネ クライネ ナハト ムジーク」の主旋律に対して、他のパートはどのような動き（伴奏、低音）をしているかに注目して聴き取る。 ・旋律やリズムの重なり方から、曲の感じ、強さ、響きがどのように変化するかについて友達と話し合い、自分の意見や感想をワークシートにまとめる。 	<p>音の重なり 反復 変化</p> <p>旋律</p> <p>リズム 強弱</p>
--	--

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽及び弦楽合奏の音楽を形づくっている要素のうち、主旋律とその他のパートの響きや曲想の変化の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く学習に、主体的に取り組もうとしている。 ・吹奏楽と弦楽合奏の曲を聴いて、重なり合う音の響きの違いから感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音の重ね方による変化を感じ取りながら、主旋律とその他のパートの響きや曲想の変化の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 ・楽器の編成の組み合わせによって、音色がもたらす雰囲気の違いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

本事例でも示していますが、「B鑑賞」においては、感じ取ったことを言葉で表すなどの活動を位置付け、言語活動の充実が図られています。そこで鑑賞する際の手掛かりとなるのが〔共通事項〕です。

〔共通事項〕アを、(7)音楽を特徴付けている要素、(1)音楽の仕組みと二つに分けて示しているのが小学校の特徴であり、特に(1)音楽の仕組みに着目させることで、音色やリズム、速度、強弱といったこと以外の、楽曲のつくられ方（反復、変化等）についても気付くことができます。

年間指導計画に沿って低学年から継続的に、繰り返し〔共通事項〕に関わらせ、音楽を形づくっている要素を意識しながら聴くことを通して、音楽ならではの言葉があふれる言語活動としていきたいものです。

